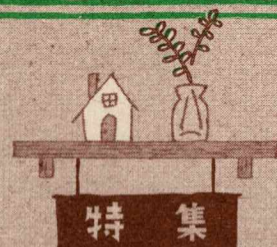
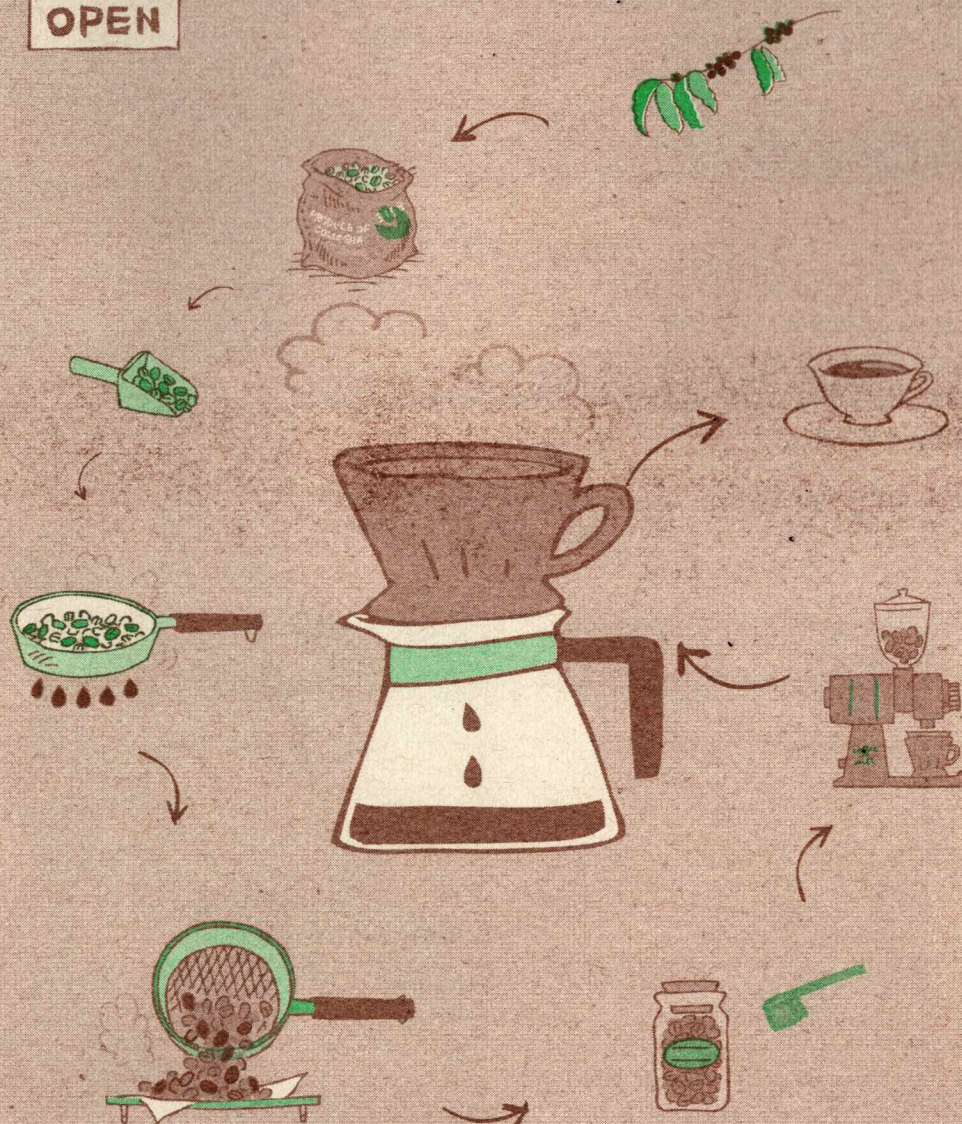


きらりとてくまく

第 33 号



民間障害者求人紹介サービスについて

☕ 「民間障害者求人紹介サービス」とは

インターネットで仕事を探していて、ハローワーク以外での「障害者の就職・転職サービス」のサイトを見たことはありますか？こうしたサイトは民間の障害者求人紹介サービス（以下：民間サービス）と呼ばれる事業者が運営しています。「エージェント」「人材紹介会社」「就職・転職サイト」などと呼ばれることもあります。職業紹介ということでは、ハローワークを思い浮かべる方もいると思います。ハローワークは正式には「公共職業安定所」と言われ、厚生労働省管轄の職業紹介などをする公的機関となります。

ハローワークに障害者の専門窓口があるように、民間サービスにも障害者向けのものがあります。

どちらも仕事を紹介するという点では同じですが、「どう違うのだろう？」と思われる方もいるかもしれません。今回は、民間サービスについて説明をしていきます。

☕ 民間サービスとハローワーク

では、民間サービスとハローワークとの違い、特徴について説明していきます。

民間サービスはいくつもの会社があります。民間サービスの主な収入源は、求人掲載する企業からの紹介料です。紹介料は民間サービスを通じて就職をした成功報酬として企業から受け取ります。求職者は登録は必要ですが、費用負担はありません。

一方、ハローワークは会社を紹介したからと言って、企業から報酬を得ることはありません。求職者自身の費用負担もありません。

● 民間サービスとハローワークの比較

	民間サービス	ハローワーク
設置主体	民間（株式会社）	国（厚生労働省）
求人数	●	● ● ●
求人の傾向	事務系（デスクワーク）、専門職が多め。正社員求人が多く、賃金も高い。都市部の求人が多い。	事務、清掃、調理補助、軽作業など幅広い。パート、アルバイトが多め。都市部＋地方の求人もある。
サポート	職業相談、紹介、定着支援までを行っているところが多い。	職業相談紹介、定着支援に加え、企業への指導も行っている。
求められる能力	高め（PCスキルなど専門技能や職務経験）	求人によって不問から、資格や経験が必要なものまで幅が広い。
紹介	マッチングを見極めてからの紹介となるため、紹介まで至らないこともある。	希望すれば原則紹介してもらえる。
助成金・制度	トライアル雇用は原則使えない。	会社によってはトライアル雇用が使える。

☕ 民間サービス利用の流れ（インターネットからの登録の場合）



1 登録

障害者の民間サービスサイトを見つけ登録をする（無料）

「障害者」、「就職」、「求人」、「民間サービス」などと検索をすると出てきます。名前や生年月日、住所など基本的な情報のほか、所有資格、職歴、障害種別、病名、障害者手帳の有無などを入力していきます。



2 面談

アドバイザーと面談（カウンセリングとも言われます）

直接の面談だけでなく、メール・電話などで面談することも多く、実技テストを行うこともあります。仕事の希望や、職歴を聞かれます。



3 求人紹介

求人紹介

登録をすると、非公開求人を見ることができたり、民間サービスから本人に合った求人を紹介することがあります。



4 応募・選考・面接

応募・選考・面接

履歴書の作成などの助言や添削、面接のトレーニングなど、コツやポイントのアドバイスなどがあります。



5 内定・入社

内定・入社

採用条件の確認や入社日の調整などをアドバイザーが支援します。



6 定着支援

入社後の定着

採用後も必要に応じフォローがあります。各社特徴があるので、1社でなく、複数社登録をして探す方もいます。



各社によって多少の違いはありますが、上記がインターネットを利用しての一般的な民間サービスの利用の流れとなります。登録から就職まで各社で違いますので、登録される場合はその会社の説明をよく聞いてみてください。



いかがでしたか？

民間サービスは紹介先企業が限定されているので、正社員や給料の高い求人が多いです。ただし民間である以上、利益が求められるため「契約企業に良い人材を紹介する」という目的があるので、学歴や資格、職務経験がある方には有効なサービスと言えますが、反面そうでない方の場合には、登録はできても紹介まで至らないこともあります。

そのため、職歴やスキルに自信のない方の場合には公平性の高いハローワークでの求職活動のほうがよいかもしれません。定着支援についても民間サービスでも行っていますが、あくまで職場に限った範囲になるため、就職前から就職後、医療面、生活面も含めた長期的な支援を必要とされる場合には就労移行支援事業、就労定着支援事業や障害者就業・生活支援センターのほうが適していると言えます。

このように民間サービスはメリットがある一方で、そのサービスの対象にも限りがあります。こうした特徴を理解した上で利用するかどうかを検討してみてください。



きらりとてくてく 🔍 検索

次号予告

次号は「余暇」をテーマにする予定です。